

平成28年第1回  
北区まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議議事録

日 時：平成28年7月27日（水）午後7時00分～午後9時3分

場 所：北とぴあ 14階カナリアホール

1 開 会

2 政策経営部長挨拶

3 推進会議の運営について

4 委員委嘱（委嘱状交付）

5 委員紹介

6 会長及び副会長の互選

7 議題

（1）北区の人口の現状について

（2）北区版総合戦略 重要業績評価指標（KPI）の平成27年度実績について

（3）地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）活用事業の効果検証について

（4）平成28年度北区総合戦略の改定について

（5）その他

8 閉会

出席者	加藤久和会長		
	岩崎美智子副会長		
	遠藤 薫委員	池本洋一委員	榎本義彦委員
	大塚麻子委員	越野充博委員	篠崎 勉委員
	永沢 映委員	馬場和人委員	今井直樹委員
	内海千津子委員	柴田恵理子委員	

## 議事要旨

### ○区

皆様、改めましてこんばんは。まだお見えになっていない委員がいらっしゃると思いますが、時間になりましたので、これより北区まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議第1回目を開会させていただきます。

私、北区政策経営部企画課長筒井でございます。どうぞよろしくお願いいたします。  
次第の6までを進行させていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、初めに政策経営部長の依田よりご挨拶をさせていただきます。

### ○区

皆さんこんばんは。政策経営部長の依田と申します。よろしくお願いいたします。

本日は、お忙しいところ、本当にお集まりいただきましてありがとうございます。

昨年の策定委員会から引き続き委員をお引き受けいただいた方、また、今回はじめて推進会議の委員をお引き受けいただいた方、本当にどうもありがとうございます。

北区は今年の3月に策定委員会での議論をもとに北区の人口の長期ビジョンと総合戦略を策定して現在取り組みを進めております。北区の人口ビジョンでは、人口減少社会を見据えて目指すべき将来の方向性として「2060年に首都東京の自治体として30万都市北区を未来へつなぐ」といたしました。ただ、ここのところの新聞報道で、2015年の国勢調査の結果ですとか、ことしの1月の人口動態調査の結果などを見ますと、東京一極集中がさらに進んでいるというような形で、現在のところ東京の人口は増加をしているということです。北区も増加を続けている現状です。転入増によります社会増ということが要因になってございますが、ただ、この転入増がいつまで続くのか、また若い世代の人口の絶対数が少ないことや、都市特有の問題としての超低出生率の問題、さらに団塊の世代が75歳になる2025年問題というのも控えてございます。人口問題はすぐには結果が出ないというふうに思っておりますけれども、今後30年、40年先を見据えまして、今やらなければいけないことにしっかり取り組んでまいりたいと思っております。

北区、ことし中期計画の改定の準備を進めておりますが、委員の皆様には総合戦略の検証とともに、総合戦略の目標に向けて新たな事業の提案ですとか方向性、このようなご意見をいただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

### ○区

それでは、続きまして本推進会議の運営についてご説明をさせていただきたいと思っております。

事前に資料を送らせていただいておりますが、資料の1番というものが本推進会議の設置要綱になります。こちらをごらんいただきたいと思います。

1条で目的を示しております、第2条では、当会議の所掌事項を示させていただいております。一つ目といたしまして、総合戦略に掲げる施策の効果検証に関すること。二つ目といたしまして、総合戦略の改定にかかわる検討に関することということになっ

てございますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

また、第3条のところでは、本推進会議の組織につきましてご説明をしておりますけれども、構成員は、学識経験者の方3人以内、区内の各種団体構成員の方7名以内、公募委員の方3名以内となっております。13名の皆様に委員をお願いしております。よろしくお願いいたします。

資料1につきましては以上でございますけれども、あわせてお配りしています資料の2番で本推進会議の内規ということで、この会議の公開に関する必要事項といったものを定めております。本推進会議は、運営上の支障がない限り公開をすることというようにしております。傍聴の取り扱いについて定めております。

また、推進会議の皆様のご発言につきましては、事務局でまとめをさせていただき、皆様にも内容を確認をしていただいた上で、北区ホームページ上に掲載をしてみたいと思っております。公開の際は、発言者の個人名は出さない形で公開とさせていただきます。

続きまして、次第の4番に入りますけれども、委員の委嘱でございますが、時間の関係もございます。皆様の席上に委嘱状を配付させていただいておりますので、ご確認をいただければと存じます。

それでは、続きまして次第の5番でございます。委員紹介ということですが、委員の皆様のご紹介に移らせていただきます。大変恐縮ではございますけれども、自己紹介とさせていただきます。お名前と所属されている団体などをお願いできればと存じます。お手元に資料3として委員の皆様の名簿を配付させていただいておりますので、ご参考になさっていただきたいと思っております。

では、資料3の名簿の順番でと思っておりますので、委員からお願いしたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

#### ○委員

こんばんは。東京家政大学家政学部児童学科に所属しています岩崎です。よろしくお願いいたします。

#### ○委員

こんばんは。引き続きよろしくお願いいたします。東京電機大学の建築学科におります特任教授の遠藤でございます。電機大は3年目なんですけど、その前ずっとUR、これはいつもお話をいたしていましたURに30年おりました。その経緯でまちづくりのことにかかわってまいりました。よろしくお願いいたします。

#### ○委員

明治大学の加藤です。引き続き今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

#### ○委員

リクルート住まいカンパニーでSUUMOという住宅サイトを運営しております池本です。ことしもよろしくお願いいたします。

○委員

北区子ども・子育て会議委員をやって4年目になります大塚と申します。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

○委員

皆様こんばんは。コミュニティビジネスサポートセンター代表理事の永沢でございます。事務所が赤羽にありますのと、ネスト赤羽という北区の創業支援施設のマネジャーをことしで11年目務めさせていただいております。よろしくお願いいたします。

○委員

こんばんは。北区しんきん協議会の事務局をやっております。また滝野川信用金庫の業務部におります。北区で生まれて現在も北区に居住しております。よろしくお願いいたします。

○委員

公募委員の柴田でございます。遅れまして大変失礼いたしました。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

○委員

公募委員の内海千津子と申します。十条で子連れOKサロン「ほっこり～の」というものを起業して5年目になります。また、ネスト赤羽の出身者でもございます。子育てママたちの住みよい北区、住みよい地域づくりということで、現場で吸い上げたお声をここに投影していけたらなと思っております。よろしくお願いいたします。

○委員

公募委員の今井と申します。ことしもよろしくお願いいたします。私はリクルートライフスタイルで「じゃらん」というサイトの企画を担当しているのと、あとはちょっと私事ですけれども、6月末に自分の会社をつかって、秋ごろにはリクルートを卒業しようというふうに考えている者です。いろいろとまた皆さんといろいろな議論ができればいいなと思っております。よろしくお願いいたします。

○委員

こんばんは。本年度より委員を拝命いたしましたハローワーク王子の篠崎でございます。今後ともよろしくお願いいたします。

○委員

東京商工会議所北支部の越野でございます。本年度も何とぞよろしくお願い申し上げます。

○委員

北区民生委員児童委員協議会会長をやっております榎本です。本年もよろしくお願ひします。

○区

ありがとうございました。続きまして、正副会長の互選に移らせていただきたいと思ひます。本推進会議の設置要綱第5条では、正副会長につきましては委員の皆様の互選ということになってございますが、いかがいたしましょうか。事務局の案といたしましては、昨年度実施いたしました総合戦略策定のための検討会議に引き続きまして加藤委員に会長をお願いしたいと考えてございますが、皆様いかがでしょうか。

(異議なし)

○区

それでは、加藤委員に会長をお願いさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

○会長

よろしくお願ひいたします。

それでは、副会長ということで決めさせていただきたいんですが、副会長につきましては、東京家政大学教授の岩崎委員にぜひお願ひをしたいと思います。岩崎委員は、昨年の検討会において副会長を務められており、適任だと思いますが、ご同意いただけますでしょうか。

(異議なし)

○会長

ありがとうございます。

○区

ありがとうございます。それでは、会長を加藤委員に副会長を岩崎委員にお願いしたいと存じます。

会長、副会長、ご挨拶をお願いしたいと思います。会長よりお願ひいたします。

○会長

加藤でございます。昨年に引き続きまして会長を引き受けさせていただきました。昨年の検討会では、皆様方から大変貴重なご意見をたくさんいただきまして、その結果、大変すばらしい総合戦略ができたのではないだろうかというふうに考えております。戦略はつくるのが目的ではなくて、その中身をチェックしていくということになるんだろうというふうに思っております。本当に総合戦略をつくって地域のためにやっていくというのは、これからがスタートだろうというふうに考えておりますので、国のほうの動

きとは別に、ぜひ北区の中で総合戦略の堅実な実行と、それから、私は北区に住んではないのですが、だんだんシンパシーを感じてきたものですから、よりよい北区がつけられるようにと思っております。

実は、私の家内がちょっと食の関係の仕事をしているんですが、ついこの間北とぴあで仕事をして、何か北とぴあってすごいとか、その公園がいいとか言ってまして、そのうち引っ越してくることも話をするのかなと考えてはおるのですが、そういうときにはまた委員のところでもいろいろとお世話になるかもしれません。まだ確定ではございませんが、どうぞよろしく願いいたします。

また、今後引き続きこの推進会議の皆様方から活発なご意見をいただきまして、何とぞ進んでいければというふうに思っています。どうぞよろしく願いいたします。

#### ○区

ありがとうございました。

では、続きまして、副会長からご挨拶を賜ればと存じます。お願いいたします。

#### ○副会長

私は引き続き副会長ということで仕事をさせていただきます岩崎です。よろしくお願いいたします。

策定委員会では、本当に皆様からいろんな意見を出していただいて、私も勉強になりました。そして、これから本格的な事業を展開していったって、新たな事業も提案していくということで、北区の特性を考えて、それに応じた事業がいろいろと展開されるといいと思っております。

それで、とにかく北区の会議の特徴としては、もう本当に活発な議論ができることだと思うんですね。この間も他大学の先生とちょっと話をしていましたら、ある自治体の会議ですと、本当にシナリオというか、筋書きどおりに会議が進められて、何か意見はありませんかと言っても、シーンとみんなうなずいて、はいしゃんしゃんということで終わることがほとんどだということを聞いて大変驚きました。北区の会議では、どの会議もそうだと思うんですが、本当に委員の方々がいろんな意見をばんばんがんがん言ってくださって、事務局の皆さんは恐らくある意味大変だとは思いますが、やはりこういうふうにならぬ意見が出てくるというところはすばらしいと思っております。非常に民主的な会議だと思っております。

どうぞよろしく願いいたします。

#### ○区

ありがとうございました。

それでは、ここからの進行は会長にお願いしたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

#### ○会長

よろしいですか。それでは、もう早速本日の議題に入りたいと思います。  
まず初めに、事務局より配付資料の確認のほうをお願いいたします。

#### ○区

では、配付資料の確認をさせていただきます。

もう既に資料の1番で当推進会議の設置要綱、資料の2番では公開に関するということ、資料の3番で名簿ということでご案内をさせていただいております。その次に、事前にお配りしたものとしまして資料の4番ということで北区の現状、資料の5番で北区版総合戦略重要業績評価指標（KPI）の平成27年度実績についてというものでございます。資料の6番で地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）活用事業の効果検証について、資料の7番で、こちらは国が出している資料になりますが、まち・ひと・しごと創生基本方針2016でございまして、そして資料9番として、地方創生加速化交付金（2次募集）に係る実施計画の提出についてというものを事前にお配りをさせていただいております。

また、本日式次第とともに席上に配付させていただいた資料が資料の8番になりまして、平成28年度北区版総合戦略の改定についてというものが1点と、資料の5番の4ページ部分だけを抜粋したものになりますが、一部訂正箇所がございましたので、そちらをお配りさせていただいております。

事前の配付資料と本日配付させていただいた資料がございまして、何か不足のものがありませんでしたら事務局にお声がけいただきたいと思います。

#### ○会長

それでは、早速本日の議題に入りたいと思います。

本日の議題は、平成27年度の実績及び先行型交付金活用事業の効果検討、それと28年度の総合戦略の改定と、大きく二つに分かれております。時間を区切ってご議論いただきたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

まず、（1）番、北区の人口の現状について、（2）番、北区版総合戦略重要業績評価指標（KPI）の平成27年度実績について、（3）番、地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）活用事業の効果検証について、事務局より資料のご説明をお願いいたします。

#### ○区

それでは、まず北区の人口の現状についてということでご説明をさせていただきます。資料の4をごらんいただきたいと思います。

こちらの資料でございましてけれども、3月に策定いたしました人口ビジョンの中で、新たなデータが入手できた項目について、最新のデータを追記してお示ししたものであるようになってございます。

まず、1ページでございましてけれども、図表の3ということで、出生数及び死亡数の推移となっております。こちらを見ていただきますと、動きについて大きな変化はないんですけれども、死亡数についても増加をしていますけれども、出生数についても伸

び率についてはやや鈍化はしているものの、やはり2014年から2015年についても増加をしているというような傾向が見られます。図表の4番につきましては、転入数及び転出数の推移となってございますけれども、やはりこちらも転入超過の状況は続いているというようになってございます。

次に、2ページに進んでいただきまして、こちらは図表の5番でございますが、自然増減と社会増減の推移というものでございます。出生数の伸びはあるものの、やはり人口の増加の要因としては社会増によるものが大きくなっているということでございまして、ここについても前年までと同様の動きということになってございます。

3ページに参りまして、図表の13番、外国人人口の推移というものでございます。外国人人口、2012年以降増加の傾向はやはり続いております。2015年から2016年の増加の数ということですが、1,600人程度増加をしているというようになりまして、増加の勢いは強まっているというように言えるかと思えます。

次に、4ページからは産業に関するデータでございます。4ページでございますけれども、平成26年の経済センサスの結果を反映しています。図表16、事業所数の推移、17、事業者数の推移ともに大きな変化は特には見られないという状況でございます。

お隣5ページに参りまして、図表の18番、こちら事業所の新設・廃業比率の推移でございます。こちらも平成26年の経済センサスの結果を追加をしておりますけれども、廃業比率につきましては、それほど大きく変わっているというふうには言えないかと思うんですが、新設の比率につきましては大きく動いている、伸びているような状況になってございます。ただ、これは北区だけということではなく、23区全体、東京都全体につきましても大きく動いている、伸びているというような状況になってございます。余りに増加の勢いが大きいので、何か調査の仕方であるとか定義が変わったのかなと思ひまして国に確認をしたんですけれども、そういった面での変化はないというようなことでございました。

後ほどすみませんが、ここについては委員から少し補足のお話をいただけるとありがたいかなと思っております。

以上が資料の4番の説明でございます。

引き続きまして、資料の5番のご説明もさせていただきたいと思ひます。こちらは北区版総合戦略重要業績評価指標の平成27年度の実績一覧というようになってございます。

まず、こちらの資料の見方なんですけれども、3月に策定しました北区版総合戦略の中で、数値目標を掲げた項目及び重要業績評価指標を設定した事業につきまして一覧にしているというものでございます。数値目標を掲げた項目というものが、基本目標のすぐ下のところに記載されている項目になります。それぞれ施策の方向ということで、1ページの場合は(1)から(3)までございますが、その施策の方向のすぐ下に記載をしているものが重要業績評価指標を設定した事業というようになってございます。それぞれ平成27年度末の実績が出せたものについては、記載をしております。記載がないものにつきましては、国勢調査を初め、何らかの調査の結果が出ないと明らかにならないものということで記載がないというようになってございます。

主なもののみご説明をさせていただきたいと思ひます。

まず、1ページの基本目標I番「子育てするなら北区が一番」をより実感できるようにすることについてでございます。数値目標を掲げた項目からご説明をします。

まず一つ目、合計特殊出生率でございますけれども、平成26年が1.20というようになってございます。平成27年につきましては、国においては1.46というような数字が公表されてございますけれども、北区の平成27年の値がわかるのが今年の秋ごろの予定ということになってございますので、今回は空白というようになってございます。

次の欄の、子育てファミリー層・若年層の人口のところでございますけれども、27年度末で15万57人というようになってございまして、生産年齢の人口の増加が見られるというようになってございます。

そして施策の方向(1)から(3)につきましては抜粋してご説明をしたいと思いますのですが、まず施策の方向(1)番の産前産後セルフケア講座参加者数、産後デイケア利用者数につきましては、後ほど資料6に基づきましてご説明をさせていただきたいと思います。

次に、施策の方向(2)の一番上のところになりますけれども、保育所の待機児童数というものがございまして、ここにつきましては、平成27年4月1日の時点で160人という数字でございました。平成27年度末見ていただきますと232人ということで、残念ながら増加をしてしまったという結果になってございます。この事業につきましては、北区といたしましてこれまでも力を注いできた事業ということになっているんですけれども、就学前人口の増加であるとか保育ニーズのさらなる高まりなどもありまして、このような結果になってきたかなと捉えております。ただ、このような状況を踏まえまして、北区では、28年の3月に区役所内で緊急的な対策を講じるためにプロジェクトチームというものを立ち上げました。そして今年度からすぐに取り組める対策などを検討しておりまして、今年の秋に開設を目指す保育園の整備などにも現在取り組んでおりまして、待機児童のゼロを目指して今後も努力を続けていきたいと考えている事業でございます。

次に、ページ進んでいただきまして2ページをごらんください。こちらは基本目標のII番になります。「女性」・「若者」・「高齢者」の活躍を応援するというものでございますが、まず数値目標を掲げた項目についてでございます。

女性、若者、高齢者それぞれの就業率ということでございますけれども、こちらは国勢調査の結果が出ないと判明しないということで、記載ができない状況になってございます。

区民参画、地域活動への参加割合ということでございますが、これは今年度実施しております北区民意識・意向調査、この結果によりまして秋ごろにはわかる予定ということになってございます。

また、65歳の健康寿命につきましては、男性については若干伸びたものの、女性については少し下がってしまったというような状況になってございます。

こちら施策の方向の(1)番に位置づけています女性のキャリア・アップセミナーと女性の起業家支援セミナーにつきましては、こちらも資料6に基づきまして後ほどご説明をさせていただきます。

次に、3ページに参りまして、基本目標のⅢ番でございます。こちらは「創業へのチャレンジ」によって、地域産業の活性化を図るといったものでございますが、数値目標のデータ項目から見ていきますと、付加価値額につきましては、経済センサスの結果が出ないとわからないということになっております。創業比率につきましては、9月にデータが公開される予定というようになってございます。

各施策の方向に位置づけています各事業の進捗につきましては、数値目標に関しては、まだ十分なデータがそろっていないというような状況になってございますけれども、各施策の方向に位置づけた事業につきましては、ほぼ計画どおりに進捗しているかなというように見てございます。

次に、4ページにお進みください。こちらは基本目標のⅣ番でございます。まちづくりの一層の推進を図り、北区の個性や魅力を発信するということになってございます。こちらは本日お配りしました訂正版をごらんいただきたいと思っております。赤で囲っているところが訂正した箇所ということになってございます。

まず、数値目標を掲げた項目から見ますと、滞在人口につきましては、若干数値としては下がってしまっているというような状況でございます。

次に、北区の認知度のところでございますが、平成26年度末で17%であったものが、平成27年度末では28%ということになっておりまして、こちらは非常にうれしい数字が出たかなというように思っております。

また、住みたい街ランキングのところでございますけれども、26年度末43位ということでしたが、27年度末は31位ということまで来ていまして、目標30位以内を目指すという目標値を掲げてございますが、もう一步のところまで来ているかなというように思っております。

施策の方向に位置づけた事業につきましては、一番下の施策の方向(4)のところを見ていただきたいと思っております。こちら北区の認知度のところにもかかわってくるかなというように思っているところですが、下から二つ目の北区シティプロモーション方針のところでございます。こちらは26年度末検討となっておりまして、27年度にシティプロモーション方針というものを策定いたしました。あわせて「住めば北区東京」というブランドメッセージも作成いたしまして、現在それをホームページなどでも積極的にPRをしているというような状況でございます。

次に、5ページに参りまして、基本目標のⅤ番、他自治体とともに発展できる取り組みを進めるについてでございます。

こちら数値目標を掲げた項目、重要業績評価指標を設定した事業ともに事業数が非常に少ないところになってございまして、指標についてもまだ十分出していないような状況ではございますけれども、今年度から北区といたしまして他自治体との交流に力を入れるため、庁内での会議及び他自治体にもご参加いただく検討会というようなものを実施していく予定でございますので、今後また何か動きがありましたらご紹介できるかなというように思っております。

資料5でお示しの事業につきましては、どれも重要なものというように捉えてございますけれども、北区人口ビジョンに掲げております、生まれ・育ち・住んでよかったと思える「ふるさと北区」を実現し、首都東京の自治体として「30万都市、北区」を未

来につなぐという北区の目指すべき将来の方向性、この実現に向けまして、事業の進捗も踏まえまして、先ほど部長からもご挨拶の中で申し上げましたけれども、新たなご提案なども皆様からご意見をいただけるとありがたいかなと思っているところでございます。

続きまして、少し長くなりますが、資料6も説明をさせていただきたいと思っております。

こちらは地方創生先行型交付金を活用した事業ということで、皆様に効果検証をお願いしたいと考えているものでございます。

こちらは平成26年度の国の地域活性化・地域住民生活等緊急支援のための交付金、これを活用した事業になっておりまして、こちらは実施結果をこういった場で報告をして検証していただき、それを国に報告をしていく事業ということになってございます。

まず、対象事業の(1)番のところでございます。こちらは(仮称)北区まち・ひと・しごと創生総合戦略等の策定事業ということで、昨年度、皆様方にもご協力いただきました検討会であるとか、調査等にこの交付金を活用しまして、北区の人口ビジョン、総合戦略を策定していったというような事業でございます。こちらはもう27年度で完了した事業ということになります。

(2)番の地域で受け継ぐ文化芸術の創造事業でございます。事業内容といたしましては、田端文士村の展示機能の充実ですとか、芥川龍之介邸の復元ジオラマを制作したというものでございます。

目標値といたしましては、展示ホールの入館者数ということで1万2,500人を目指すということにしております。実績値というところでは1万2,405人ということで、目標に少し及ばなかったもののほぼ90%ぐらいは達成しているような状況ということになってございます。

次、ページめくっていただきまして2ページでございます。こちらは女性の活躍推進応援塾という事業でございます。事業の内容でございますけれども、女性のさらなる活躍を応援するため、セミナーを開催するとともに、起業を支援する起業家支援セミナーというものも開催していくといったものでございます。

目標値につきましては、セミナー参加者数100名というようにまずしておりますが、こちら実績は174名ということになってございます。

また、二つ目の指標、創業支援施設につなげた件数ということで、3件という指標値を掲げましたが、こちら実績値31件ということになってございます。ただ、この31件なんですけれども、創業支援施設につなげた件数そのものではなくて、この②番のセミナーを終わった後に個別相談をした件数ということになってございまして、創業支援施設に実際につなげた件数にはなっていないということになっております。目標値の設定の仕方につきまして、ここはもう少し見直しが必要なのではないかとということにも事務局でも考えているところでございますので、このあたりの目標値の設定の仕方につきましては、ぜひ皆様にもまたご議論いただきたいなと思っております。セミナーを終了したからといってすぐに創業支援施設につながるといったものでもなく、多分いろいろとそのセミナーが終わってから考え、皆さんきっと悩み、準備をした上で初めて創業支援施設につながっていくというようなこともあるのではないかと思いますので、このあたりのご意見をいただきたいと思いますと思っております。

次に3ページに参りまして、産前産後ケア事業ということでございます。事業内容といたしましては、出産前後の女性の精神的な不安、孤立による育児不安の解消を図りまして、心身ともに健全な育児ができるようセルフケア講座を開催するといったものと、民間団体が行う産後デイケアの取り組みを支援していくといった二つの内容になります。

産前産後セルフケア講座につきましては、児童館を会場として行っております。指標値につきましては、400組が目標というように掲げてございましたが、実績は307組というようになってございます。この307組の内訳でございますが、産前の方が95人、産後の方が212組というようになってございます。

次に、デイケアの利用者数ということでございますが、指標値90組ということに對しまして、実績は81組というようになってございます。目標まではまだ達していないような状況でございますけれども、もっと認知度が高まることによって伸びてくる事業ではないかというように思っております。この81組の方の中には5回ほど利用しているという方もいらっしゃるしまして、リピーターの方も一定数いるような状況ということでございます。

以上が、先行型交付金という国の交付金を活用した事業についての指標値と実績値についてのご説明でございます。

(2)番から(4)番の三つの事業につきましては、総合戦略の中にも位置づけている事業というようになってございますので、資料5にお示しした事業一覧の中にも含んでおりまして、今後とも進捗を追っていく形になる事業でございます。

長くなりましたが以上でございます。よろしくお願いたします。

## ○会長

ありがとうございました。先ほど副会長がおっしゃっていたんですが、皆さんご発言をなさりたいという非常に活発なご意見をいただけるということですので、この会議は今日からご参加された方もいらっしゃるのですが、ご自由に発言というよりも、まずお一人ずつ順番にご発言をいただきたいというような形にしております。少し今日は時間がございます。といってもお一人10分、20分というのはちょっとなかなか難しいですが、3、4分ずつであればいいかなと思うんですが、時計回りの順番に、今のご説明にあったところを少しずつお話をいただければと思います。

それでは、よろしくお願いたします。

## ○委員

最初にもうちょっと早く言ってもらえると準備が。じゃあ得意分野から行きますと、私は住宅と、それからシティプロモーションの部分はこの場ではこの1年間を通じて発言をさせていただいてきたかと思えます。その点で言うと、たまたまですが弊社がしております住みたい街ランキングというところがKPIの資料に入っております、そちらがかなり上位のほうに今30番、上位といっても31位ですけども、のほうに上がってきているというところは、私としても少し実感をしているところがあります。ただ、これが挙げた理由は何なのかということをお社内で幾つか議論をしておりましたけれども、きっと二つだろうと思えますね。

一つは、マツコ・デラックスを含むテレビにおける赤羽の人気だろうというふうな話をしております。これは赤羽というまちが、北千住とか赤羽とか蒲田とか小岩とか、この辺みんな共通なんですけれども、いわゆる下町文化があって、肩肘張らずに自分らしいライフスタイルとかを、何か自分が地に足がついたような形で過ごしてらっしゃる方がたくさん住んでいると。あえてマツコさんの話をすると、恵比寿に住んでいる人は、実は恵比寿に住むことによって私はイケてる人になっているというふうに思い込んでいるけれども、そんなことはありませんからということで、結局は余りトレンドを追っていくような生活をしていくこと自体が、昔は格好よかったのかもしれないんだけど、今の若い人たちの価値観というのは、余りトレンドに何とか追いついていこう、それについていく生き方がすてきかという、それはむしろ格好悪いかもしれないというふうな話がよく聞こえます。これは弊社の中においてもよくそんな話はしております。そんな中で言えば、赤羽のようなまちというのが、どちらかという自分らしくいけばいいじゃないかと。いろんな人たちを許容するまちというか、いろんな生き方をしている人たちがそれぞれ尊敬されているかどうかはわかりませんが、きちっと認められているというこの価値観が赤羽人気を支えているというところなんです。

それに輪をかけて、山田孝之さんの主演で出てらっしゃった漫画のドラマ化というんですかね。「北区赤羽」文字どおりですけども、これなんかもその価値観をうまく表現した漫画ということで、こういった形で、別に北区が全部シティプロモーションをやらなきゃいけないというわけじゃなくて、自然にまちが世の中の人たちが求めている、何というんですかね、空気感とかニーズみたいなものに応えていくまちになっていけば、きっとそれを何らかの形で、それは漫画であったりとかテレビのメディアであったり、誰か芸能人であったりはするのかもしれませんが、それをきっと誰かが見つけてくれて発信してくれるんだと。それによってそれにまた共感する若者が集まってくるということが見えた一連なのかなというふうに思っております。

ただ、これがずっと続くかどうかはわかりません。ですから、今後、もう少し次なる何というのかな、人気のまちというか、まちの空気感としてどんなまちになるとみんな住みたいと思ってもらえるんだらうかということは、テーマがちょっとずつ多分時代とともに変わっていくと思いますので、そこはぜひ北区の中でも、あるいは皆さんの中でもご議論をいただいて、次なる手を先行して打っていくというふうなことが必要なのかというふうに思っております。

それともう一つ、北区が人気になっている理由として挙げられるのが、これは前から申し上げておりますが、交通利便性ということに対するニーズがやっぱり高まっている。これはもう少し言えば、共働きで暮らせるまちというところがやはり人気が上がっているということになります。上野東京ラインが開通いたしまして、赤羽から東京、新橋、品川とかが直通運転ができるようになりましたので、これでかなり縦横無尽にもともと湘南新宿ラインができていましたから、多分首都圏のターミナル駅の中でも、恐らく本場に武蔵小杉と赤羽が、いろんなターミナル駅に全部15分以内で行けるというスーパー何かビッグターミナルみたいな感じの交通利便の要所みたいになってきているんだと思うんですね。だから、そこはある意味北区さんにとってみると赤羽を中心とした交通利便性の改善、それから世の中の風潮に合った発信がいろいろな方々の協力によってな

されてきたということが、今回結果としてあらわれているのかなというふうに思いました。ぜひ交通利便性はこれ以上そんなに改善しないと思いますので、僕としては個人的には、赤羽一発ではちょっとしんどいと思いますので、次にではどこの駅に行くのか、じゃあこの王子に行くのか、十条行くのか、いろいろ幾つかあるかと思うんですけど、もう一つ何か話題性をつくれるところというのを考えていただければいいかなと思いますし、それは残念ながら北区という単位ではなくて、多くの人たちは駅という単位でやっぱりスケールを見ているので、その駅という単位の中で戦略を考えていかれるのがよろしいのかなというふうに思います。

以上でございます。このくらいの長さで、長かったですか。

#### ○会長

いや、大丈夫です。ありがとうございます。すみません。最初で急に振って申しわけございません。じゃあ次の委員、お願いいたします。

#### ○委員

私は、細かい質問と要望がたくさんなので、ちょっと順番にお話ししたいと思います。

まず、資料4番で、図表3から5が2012年がどれもすごく大きくふえているんですけど、その原因と考えられているものがあったら教えていただきたいのと、それから3ページの図表13番で、外国人人口の推移、かなりやっぱり住んでいて外国人の方がふえたなという実感はすごくあるんですけども、以前あった区役所にある外国人の方の対策の専門部署がなくなって何年もたちますけど、今それに対する新しい部署、再編成して新しい部署とか専門のところがあるのかどうかを教えていただきたいと思います。

それから、資料5番で、現状値と目標値がかなりすごく目標値ががんと高いのが幾つかあって、それだったり減っていたりというところで教えていただきたいのが、まず1ページの基本目標Ⅰの上から2番目の子育てファミリー層・若年層の人口が、目標値は減っているんですけど、これはやっぱり全体の人口が減っているから数字が減っているのかなというところと。それに対して施策の方向で(1)のセルフケアとデイケアがそれぞれ7倍、5倍とすごく数字が31年度末で大きくなっているのは何でかなと思うところと、やはり2ページの施策の方向(1)のところ、支援セミナー受講者を創業支援施設につなげた件数が31件から15件に大幅に減っているところ。それから、3ページの基本目標Ⅲの上から2番目、創業支援事業計画による創業者数が、これがすごく多くて7倍の500人になっている理由といいますか、目安を教えていただければと思います。

それから、資料6ページ、1番の下の方の文士村なんですけれども、私、北区に住んでもう23年になるんですが、一度もお邪魔したことがなくて、この事業終了後における実績値はこの人数ですけど、今まで大体毎年平均どのぐらい入館者数があったのか、わかれば教えてください。

それから、後ろの2ページ目、女性の活躍推進応援塾に対する要望なんですけど、やはり3回、4回セミナーを聞いただけですぐつなげるというのはとても難しいと思うので、基礎編として、例えば女性起業家支援セミナーをやれているのであれば、それぞれステ

アップの応用編とか、ちょっと段階を経てあると、もうちょっと例えば詳しい相談だったり、経験者からお話を聞いたり、もうちょっと意欲が湧くセミナーに、やっぱり絵を描いてもそれが実行できるかどうかかなり大きなステップで、でもより実感ができる細かいステップがあれば、もっと創業しようかなと思う人がふえるんじゃないかなと個人的に思います。

すみません、たくさんいろいろありますが、よろしく願いいたします。

○会長

事務局のほうで大丈夫ですか、まずお答えがいただけることがあれば。

○委員

後でもいいですよ。

○会長

今、もしわかる範囲で。

○区

まず、人口のところで2012年のところが非常に出生が伸びている理由ということでございますけども、大変申しわけありません。ちょっとこちらが今すぐにこれではないかというものはご紹介ができないような状況でございます。申しわけありません。

次に、外国人の方専用の窓口ということでよろしかったでしょうか。

○委員

はい。

○区

それは外国人、国際化を推進していくというような意味でのということですのでよろしいですか。

○委員

いえ、居住されている方の相談だったりとか、支援の窓口というのが昔あったと聞いているんですけども、今それがなくなって、例えば学校に入ってきて言葉が通じない方が今かなりふえているんですが、そういった方をつなぐところが学校の先生頼みだったり、誰か保護者でしゃべれる人がつないだりとか、すごく個別対応なんですね。それが昔は区役所でそういう担当の部署があつてつないでいたというお話を聞いて、何でふえているのになくなったままなのかなというのを思っているんですが。

○区

以前は、20年ぐらい前になるんでしょうか、国際文化課というような組織が確かにございました。ただ、今そういった課という単位ではないんですけども、総務課とい

うところがその事業を継続しているというような形にはなってございます。広報課では、外国人の方向けの相談というようなところも設けていたりというようにはなっているような状況ではございます。

次、資料の5番の産前産後セルフケアの目標値のところでもよろしかったでしょうか。

○委員

最初に子育てファミリー層・若年層のこと。

○区

失礼いたしました。実績が上がっているにもかかわらず目標値のところは14万6,000人ということで下がっているということについてですね。こちらにつきましては、国全体といたしまして、ちょうど生産年齢人口に当たる方たちが、この31年ぐらいのときには減っていくような流れになっているということもありまして、そういった動きを受けてということで、目標値としては下がってしまっているというような状況でございます。

次に、産前産後セルフケア講座の参加者数とデイケアの件でございますけれども、こちらは27年度から、例えばセルフケア講座であれば307組というのがありますが、これを毎年重ねていくことによって、累積として31年度には2,000組を達成していきたいというような設定の仕方なので、累積が目標値になっているというものでございます。

ここが創業支援施設につなげた件数ということで、目標値としては15件になっているということでございますが、こちら先ほどご説明しましたように、設定の段階で3件ぐらいの方がこの講座を受けてから創業支援施設に毎年つながっていけばいいかなということで、3件で5年間で15件を達成できたらいいなということで最初は掲げておりました。ただ、その数字というものが現在ちょっととれていなかった、追えていなかったということもありまして、セミナーを受けてその後個別相談に結びつけられた方、個別相談まで至った方ということで今回は数値をとらせていただきました。そこで今年度の実績、27年度末の実績というところでは、個別相談まで行った方が31件になっているということです。当初目標を設定したときはあくまでも創業支援施設につながった方を15件にしましょうという目標の設定をしていたということで、この目標の設定がよかったのかどうかというあたりはご議論いただけたらと思っているところです。

田端文士村の入館者数……。

○委員

ごめんなさい、もう一個、3ページの創業支援事業計画、これもやっぱり累積ということですか。

○区

そうです。失礼しました。

田端文士村の利用状況ということでございますけれども、そうですね、大体1万2,

000人に行っている年もあったり、あとは1万800人、1万1,000人前後というような状況でございまして、これは25年で1万1,039人、26年で1万1,548人というようになっております。それで27年度末では1万2,405人まで行ったということで、若干伸びているような状況になっております。

それと女性の活躍推進応援塾につきましては、ステップアップするような形でというようなお話もいただきましたので、こちら27年度から始まっているような事業でもございますので、ご意見踏まえまして、また検討をさせていただきたいなというように思っております。こちらを受講した方のアンケートなどを見ても、そういったご要望も出ているような状況でございますので、工夫をしていきたいと思っております。ありがとうございます。

○委員

ありがとうございました。

○会長

ありがとうございました。KPIのところって、累積と、それから単年度だったり、ちょっとわかるように後で直されたほうかもしれないですね。

○区

そうですね。はい、わかりました。

○会長

よろしいですか。じゃあ続きましてよろしく願いいたします。

○委員

先ほどの資料4の5ページ目のところですが、平成24と26年の比較でいきますと、数値自体がかなり飛躍的に、創業の数値が一桁台が中心だったのが、20%台前後ぐらいがふえているという根拠なんですけれども、一つが、この平成24年のこのデータの後に、例えば政府で創業補助金という制度ができて1件創業すると200万円の補助が出ますということで、単年度で200億円予算を計上して、相当創業者がその補助金を受けて創業したというケースがふえてきたのと、あと平成26年からは、同じような制度ですが、東京都が創業支援事業ということで、やはり1件創業すると200万円助成をする制度が出来ました。いわゆる平成24年と26年の間のところでかなり創業者に対する補助金制度が手厚くされたという要因が一つ。

それから、資料5の3ページ目の上のほうに、創業支援事業計画による創業者数が72ということで書いてありますが、平成26年度までは北区の中でも創業支援事業計画を国に提出をしていなかったのです。平成27年から提出をして、それに伴って北区の中で創業数、支援数を計画に基づいて正確に算出するようになりました。北区は平成27年から始めましたが、他区によっては平成25年、26年から算出を始めています。創業支援事業計画は、北区では区の産業振興課と東京商工会議所北支部と、それから滝

信や城北信金さん、コミュニティビジネスサポートセンターと、民間の支援機関を含めた相談、講座、ハンズオン支援、融資等の具体的数字を全部区に提出するという形をとって、この平成27年度からチームでその数字を上げるような形にしてきました。

それが北区だけではなく全国的に創業支援事業計画を出すということが進んでいったので、今まで拾えていなかった創業者数を拾うようになったというところが要因として大きいと思います。さらにその数字の拾い方が1名の創業者でも相談、講座、融資を受けると複数に数がカウントされることもあります。実数としては、72といっても、イコール人数ではなくて、件数が重複していたり、一方では創業者でも数が拾えてないこともありますので、実態としてこの数値がどれだけ信憑性があるかというのは、曖昧なデータになっているというところもあります。

一方で、廃業率に関してあまり数字に増減が無いのは、廃業者は十分拾い切れないところがあります。個人事業で始めても、いつ廃業したかというところは容易には拾い切れていないというところもあります。実数的に創業補助金、創業支援事業を含めて相当手厚い支援策によって創業者数が増えるということはあっても、補助金をもらって創業する人たちが、3年後、5年後にどれだけ廃業してしまうかという、支援ありきの創業だと廃業率いずれも上がるだろうということはいわれています。今後はそれを拾っていくと、恐らく平成24年以降に補助金を受けて創業した人たちに関しては、恐らく今後平成27年、28年あたりで正確に拾っていくと、廃業してしまっている数字となってしまうケースもふえてくると思います。

国からも各自治体での創業者数の数を年々上げてくださいという目標があるので、多分、平成27年の72人というのが、28年度は相当上がると思います。平成29、30、31年度というのはさらに上がっていくという傾向なんですけど、先ほど申し上げたように、算出の仕方が正確ではない分、果たしてそれがどこまで信憑性のあるような数字として把握するべきかというのは疑問があるというところもあります。

続いて資料5の2ページ目なんですけど、女性、若者、高齢者のところなのですが、以前の委員会でもお話をさせていただいたところではありますが、多くの数字がセミナーの参加者数というところに、つまり参加者数に目標設定がされています。創業するとか活躍するというのは、ある程度は創業に至った実数を伴っていかない限り、女性、若者、シニアの活躍が伴ってこないところがありますので、セミナーの参加する人がふえたところでその人たちがどれだけ創業に至ったか、どれだけ地域で活躍したかとか、実数までを政策上で考えていく必要があるのではないかと考えております。

シニアに関しては、ここ2年で例えば子ども食堂というのが全国子ども食堂ネットワークによると、約1都3県で140カ所ぐらいできて、東京都だけで大体50件ぐらいの子ども食堂ができたといわれています。先月、足立区の協働提案制度でも30件ほど足立区内の市民活動団体からの提案がありましたが、3分の1、30件中10件ほどが子ども食堂をつくりたいという提案でした。またその担い手の多くがシニア層です。

こういうモデルや仕組みが広がるとさらに各世代が活躍できる場が地域にも広がると思います。

若者・女性・シニアがどう活躍してもらおうのかという具体的なビジョンを考えて、政

策に落とし込んでいくということ、計画を立てていくということが、今後は必要になってくるのではないかという感じがいたします。

以上です。

#### ○会長

ありがとうございます。

続きまして、お願いいたします。

#### ○委員

ただいまお話あった滝野川信用金庫なんですけども、すみません、お恥ずかしいんですけど、きょう初めて参加させていただいて皆さんのペースについていけない状態であります。

ただ、女性の活躍推進応援塾、創業セミナーに関して、インキュベーション施設等前どもがやっておりますので、その辺改めてデータのほうを集積しまして次回のときにちょっとご案内をさせていただきたいと思います。

お恥ずかしいんですけどきょうはちょっとご勘弁いただきたいと思います。

#### ○会長

ありがとうございます。

それでは、次の委員、お願いいたします。

#### ○委員

二つ質問と一つ考えなんですけど、まずは資料5の施策の方向の保育所待機児童数ということなんですけど、これは何か大幅に上がってしまったということ。流入数が多いとかいろいろその問題はあると思うんですけど、それに対して区役所内でプロジェクトをなさっていて具体的にどういうことをなさっているのかなというのを知りたいのと、後は同じく資料5の2ページ目の施策の方向(4)にあるところの町会・自治会等の見守り活動団体数というのがもともと37団体あってその1年のうちに9団体がふえたというふうになって、9が少ないのかわからないんですけど、これは新たに町会とかを起こしたということなんですか。それとも何か別の形でそういったものになる、グループをつくったとか何ていうか、どういう形でふえたのかというのをちょっと教えていただきたいというのが2点お尋ねの部分で、私のコメントとか意見としましては、先ほどからちょっといろいろ話が挙がっていたと思うんですけども、資料6にありますところの、女性の活躍推進応援塾のところのそのセミナー参加者数と支援施設につながる点数のカウントの仕方についてなんですけど、個人的に言うと、そのセミナーの参加者とかセミナーの回数というのは、余りそれを数値目標にしてそれをクリアしたからいいというのは、余りにも意味がないのではないかと。つまり結局、参加したってその後何かアクションにつながっていなければそれは、余りその物事をこれはあくまでアクションに移るためのワンステップであって、先ほどの文士村の入館数とは同じ人数という意味では同じかもしれないけど、全くその考え方、思想が違うはずなので、ここは参加者

数でない何か方法が指標としてはよいのではないかと思います。

それからその意味でいうと、創業件数3件だと31件という話なんですけど、これも多分、単年で、例えば28年にセミナーを受けた人が28年度中にアップするという事は多分難しいのでこれは単年でカウントするものではなくて、普通で2年とかの単位で幾らというふうに見ていったほうがよいのではないかなと思うのと、最終的にその創業したかしないかという件数もさることながら、そこにどの程度まで誰が進捗、つまりどこまでの準備ができている人が何人いますよとかというふうにしていくほうが、もうちょっと具体的に支援になるのではないかなと思いました。

以上です。

#### ○会長

事務局のほうから先にお答えいただけますか。

#### ○区

はい。ありがとうございます。

まず、緊急的に取り組みをしているプロジェクトチームが、どんなことをしてきたかということでございますけれども、計画的にこの年、例えば平成28年度4月には、この地に私立保育園を誘致しましょう。29年、30年それぞれ計画的に考えている中身は、それはそれとしてありました。ただ、もう29年を待っているのは28年度の待機の方が非常にお困りという状況があるので、まず、じゃあ、28年度中に何らか始められる取り組みがないのかといった視点で検討を行いました。例えば公共施設の中であいているところがあればそこにことしの秋に実は旧清至中学校の別棟部分というのを活用して1、2の低年齢児のみの保育園というのを分園という形で開設をするんですけども、そういったあいているところを活用して、緊急的に今年度内にできる取り組みはないのかといった視点でまず考えたのがあります。

そのほかに、前から計画していた私立保育園の誘致のほかに、北区内であいている区有地であるとか、そういう土地を使ってもっと保育園をふやすことができないかというような検討をいたしまして、それももう30年4月とかという形になるものが多いんですけども、計画を新たにふやしたということになります。

あとは、小規模保育所とって、0、1、2歳に特化した大体19人以下の定員の施設があるんですけども、そういったものは今ある例えば民間の施設などを一部改修することによって開設することができるということで、非常に迅速な整備ができる施設でございます。そういったものも区として力を入れて募集をしていくということで取り組みを始めておりまして、そういったのも幾つかお話が挙がってきているということで、それは大きな民間保育所よりも早く開設ができるということで取り組みを進めているということになります。

次が、町会・自治会の見守りのお話かと思いますけれども、こちらは26年度末で37団体、27年度は新たに9団体ということになっておりますが、これは既存の町会・自治会がこの見守り事業というものに着手をしてくださったということでございます。区から補助金が少し出たりするんですけども、町会・自治会としてその地域の方のお

ひとり暮らしの方などの見守りをどんなふうにしていくかということを考えていただいて、日ごろの声掛けをしていただいたり、サロンのものを開いていただいたり、そういった取り組みいろいろあるんですけども、そういった取り組みに着手してくださった町会・自治会の数ということになっております。

○委員

じゃあ、団体数がふえているということではないんですね。

○区

そうですね。町会・自治会既存のものがある。

○委員

新しいその活動がふえたという。

○区

そうですね。

○委員

はい。わかりました。

○会長

よろしいでしょうか。

ありがとうございます。

それでは、続きまして、お願いいたします。

○委員

今、配らせていただいているのが私どもの団体宛に来た区民の方からのメールでございます。内容はと言いますと、要は、幼稚園のママでパートをされている方が、夏休み中に預けどころがなくて困っているということで、どうにかしてもらえないかとかというようなご相談のメールが来ていました。

このようなどうにかならないのというのが結構最近何件も寄せられるようになってきたんですけども、去年、私どものほうで「ほっこりミニ学童」というようなことで幼稚園生と小学校の低学年の子を預かったことがありましたので、それをこどももやってほしいというご要望を受けて、今、小さくですけどもやっているような次第です。このような北区にずっと住んでいて幼稚園に通ってはいるけれども、その幼稚園に行っている間パートしている。でも、夏休み中になると子どもがずっと家にいて働くことに困ってしまうというようなママもたくさんいるというようなことを、ちょっとこの場をかりてお伝えしたかったことです。

一方、このいただいた資料の資料5のほうの子育てしながら働く世帯の支援というのを見たときに、保育所の待機児童とか学童クラブでもないし、病児保育でもないし、延

長保育でもないし、そのどこにも当てはまらないような層の人たちと言いましょか、フルタイムで働いていないとなかなか今保育園、0、1歳は特にそうですけれども、入れないような状況、待機児童数も多いような状況で、ましてや幼稚園ママでパートしてというような人を預かってくれるような施設が本当にないなというのを感じておりますので、いろんな今こそ本当にフルタイムだけじゃなくて多様な女性の働き方でいろんな団体が提唱したり、それが進んではきていますけれども、じゃあ、そのフォローはどうするのというところがまだまだで、困っている方がたくさんいるというのをお伝えしたいと思いました。

あと、本当にことし保育園事情が厳しかったなというのをサロンをやっていて来るママたちから聞いて感じております。入れなかったという方がたくさんいらっしゃいました。厳しかったねと言っています。一方、例えば川口市ぐらいから北区にできた新しいマンションに引っ越してきて、その近くに新設の保育園があったという方は、3人子どもを一遍に入れたと言っているんですね。本当にラッキーだった、引っ越してよかったと両手を挙げて喜んでいる他から流入してくる人もいれば、長年住んでいて入れなかったという方もいらして、まあ、矛盾しているんですが、その流入してくれている人をふやしたいなという気持ちもすごくあるんですけれども、地元で長く暮らしている人たちにも優しい、さっき区役所のほうでも新しいプロジェクトをやってくださっているということだったので、ありがたいなと思いますけれど、そういうような感じがありました。

あと、2ページのほうで女性の再就職支援事業による再就職者数が1年間で8名というようなことでありましたので、累積かもしれないけれども31年に55人というようになっていますけれども、余りにノルマを課せるのはやめたほうがいいかなと感じたことがありました。と言いますのが、ここだと思えるんですけれども、そのセミナーに出ました、インターンシップ制度に行きました。違ったら申しわけないんですけども、でもその後にはさあ就職するのどうするのとなったときに、あなたね、今、就職しないと就職できないわよと、こんないい条件のところにもう就職できないかもよみたいな、ちょっとそのママさん気が弱かったのでええとのけぞってしまった何てことをおっしゃっていたんですけども、本当だったら何かまだそういう子育てと家庭とどう両立しようか、どうしようかと迷っているときに寄り添って、今も悩んでいるようだったらまた先々いい条件のが来るかもしれないよと、こうある意味逃げる道もつくってあげたいなと私なんかは思えるんですけれども、そこがやっぱりこうノルマじゃないですけども、数字ということになるとちょっとそういう部分も出てくるのかなと思いました。

変な話、うちのサロンのほうでも毎月一人から二人、人が欲しいという事業者さんにご紹介したりなんかもしているんですけども、やはりその相談に行くこと自体がハードルがママたちにとっては高いですよ。赤ちゃんを背負ってそういうところになかなか行きづらいんで、うちみたいに茶の間感覚で赤ちゃん転がしておいてお茶飲んでいるようなところで結構そういう話が出てくる部分もあるので、うちみたいなそういう民間のところをうまく活用していただくとか、あと茶の間感覚の本当に主婦たちが気軽に行けるような就職センター的なものがあつたらいいなということを感じます。

あと質問なんですけど、大学生のインターンシップ事業者数が30人ということですが、これはうちだけで去年28名大学生のインターンシップを受け入れている

んですけども、報告とかしたら何かこの数字にプラスされたりするんでしょうか。何かそういう大学生のインターシップ実習数というのが30人というのはどこでなんですかという素朴な疑問です。

あと先ほど……。

○会長

すみません、早く。

○委員

ごめんなさい。わかりました。はい。

じゃあ、最後一つだけ、文化芸術のその文士村、私も本当に行ったことがなくあれなんですけれども、プラネタリウムを復活させてほしいなという要望がいまだに強いです。スペースUにあったプラネタリウムをぜひとも復活させていただけたらなというご意見をお伝えさせていただけたらと思います。

すみません、長くなりまして。失礼いたしました。

○会長

ご質問のほうはいかがですか。

○区

はい。すみません。ご質問いただいたのは大学生インターシップ事業なんですけども、ちょっと数字の取り方どんな形でなっているのかというのは、確認をさせていただいて後日ご連絡させていただきたいと思います。申しわけありません。

○会長

ありがとうございます。

それでは、次の委員、お願いいたします。

○委員

はい。僕のほうから2点で、両方とも感想というか、資料6の(4)の産前産後ケア事業なんですけど、実はうちの娘はことし3月に生まれていて、実はこれを使ってですね、これ両方とも。セルフケア講座とか、あとデイケアも1回だけ使っているんですけども、非常に好評だったんですね、ただ、これも余りたまたま知ったというような感じなんで、ちょっと情報のリソースがどうだったかちょっとわかんないんですけども、受ける側からすると非常によいなということはありませんんで、特にデイケアのほうは来てくれたりとかもあるので、すごいありがたかったとおっしゃっていたので、まあ何かこういうのは地道かもしれないんですけども、やっていったらすごくいいのかなと思っていますので、ちょっと一ユーザーの感想ですけども非常によかったんじゃないのかなと思っています。

このセルフケア講座は、いろんなママさんと子どもがふれあいながら教室みたいな感

じなんですけど、横のコミュニケーションとかもあったりして町の中で親同士会って、この間一緒に講座受けた人ですよとコミュニティができ上がったりもしているんで、何かこういったところも、横のママさん同士のつながりとかもできたりするので、非常にいいものなのかなというふうにはちょっと一ユーザーの感想です。

あともう1点が資料5の4ページ目の施策の方向性の3で、ちょっとこれ仮称なんでちょっとよくわかってないんですけど、北区の観光協会の設立のほうは1個あって、多分これまだ中身が決まってないかもしれないので一つのアイデアなんですけども、多分この後あると思うんですけど、DMOみたいな地域の広域な観光協会みたいな、今よく各地域でもつくっていると思っています。多分一番有名なところで言うと、瀬戸内観光協会とってまさに瀬戸内海を挟んでいろいろと八つくらいの県が出てやっている観光協会とか、かなり広域でやっていてそこでマーケティングをして集客して事業を立ち上げているところもあるんですけども、仮に北区で観光協会を立ち上げたときに、北区のために観光に来るだとか日帰りも含めてということ考えると、なかなか正直ないと言ったら失礼なんですけども、余りイメージができないところもあるので、ある意味もう何か23区の一部の区だけじゃなくて、例えば埼玉のほうとか含めて、自治体の別に市区町村単位じゃなくてもいいと思うんですけども、そういった連合のような形でやればいいんじゃないのかなというふうには思っています。あと、必ずしも北区にとじて消費が起きるというイメージもないですし、観光する人も別にそこを期待してはいないと思うので、ある程度面で、何かできたらおもしろいのかなと普通に思っています。

後は、そこから話が付随するんですけども、例えば浅草でイベントをやっている人たちがいるとインバウンドだ、インバウンドだと言っているんですけど、別にインバウンドを推奨したいわけじゃなくて、やっぱりインバウンドのお客様が来ると結構そこで設備投資としてIT投資をするので、通信環境とかITインフラが整うとか結構あったりするんですね。外国人観光客とフリーWi-Fiスポット、例えば浅草だと80機くらい一気に市内に導入したところがあるんですけど、そうすると別に外国人だけじゃなくて日本人も使えますと。日本人は別にフリーWi-Fiスポット使いたいわけじゃなくて、そのWi-Fi環境を使って、例えば新しい通信ビジネスとかできたりがあるなと思っていて1個はスタンディングジャストアイデアですけども、例えば高齢者の見守りとかも通信環境があればビーコンとか使って、例えば徘徊じゃないですけども、どっかに行かれたりとか、ご家族、子どもの見守りとか、子どもにビーコンとか、そういうWi-Fiのアプリケーションを出して管理するとかということもできたりするので、結果的にその観光をとるために設備投資をして、今までKPIにあるような2ページ目にあるような地域で支え合うとか、高齢者の健康づくりとか、若者の就労支援みたいなところに波及するんじゃないのかなと思っているんで、ちょっと一つ観光化は切り口なんですけども、観光を広域でやってそれに対しての設備投資としてインフラを整えていくというのは一つあるんじゃないのかなというのが一つの意見です。

以上です。

#### ○会長

ありがとうございました。

続きまして、お願いします。

#### ○委員

よろしくお願いいたします。

私も本日が初めての会ということで全く勘違いなお話をさせていただくことになると思うのですが、私どもハローワークとしてこの場に貢献できるのが、恐らく資料の5番の2ページ目でございます「女性」・「若者」・「高齢者」の活躍を応援する中の就労支援ではないかなと思っております。先ほどからの私どもの就労支援の關係にヒントをいただくようなご意見を多々いただいた部分がありますが、ご存じのように私どもハローワークは国の機関ではありますが、国の機関の中でも地域に密接につながりを持たせていただかないと業務は続かないという機関では、一番ではないかと思っております。その中でこの北区さんが目標策定していただいている女性・若者・高齢者につきましても、私ども国では1億総活躍社会というようなことで、どんな方でも就労の機会を多々持つていただくためにいろいろと対策を練っているというような状況の中で、こういった部分についても今現在進めさせていただいている状況ではございます。ただ、ハローワークでも同じ東京の中でも14カ所あるのですが、やはり地域によっては全然内容が違うというようなことで、例えば例を挙げますと、品川とか渋谷、新宿につきましても企業が多いということで求人倍率も5倍以上ある地域もございます。私どもハローワーク王子につきましても、北区を管轄させていただいておりますが、今現状として0.97倍というようなことで、逆に居住型、お住まいの方が多いというようなことで、ほかの地域にすぐに就職していただくことも含めての対策というのにも必要だということで、特にその地域ごとに根差した形でやっていかないといけないと思います。

また、最初に委員のほうから赤羽を中心にとというようなお話がありましたが、私どものランチ、出先の機関ですね、赤羽しごとコーナーというのを持っております、そこで非常に利便性がいいということでご利用いただいているということもありますので、今後そういった部分で他の地域も含めた形で就労支援を進めていくのか、それともこの地域に根差して、あと定着していただくための就労支援かというような方向性を見出しながら北区さんと連携を組ませていただきまして、就労支援に力を注ぎさせていただければと思っております。

今後ともよろしくお願いいたします。

#### ○会長

ありがとうございました。

それでは、次の委員、お願いいたします。

#### ○委員

観光協会について事務局から答えがなかったのので、私のほうから答えさせていただいてよろしいでしょうか。

あの観光協会の設立については、大前孝太郎城北信用金庫理事長を委員長とする観光協会の設立準備委員会というのが昨年組織されまして、この6月にその答申と言います

か、意見書を今、区にご提出をしている段階でございます。これには、今、委員からお話がありましたようなDMOの話だとか、それからシティプロモーションとのかかわりですね、そのもう委員のような情報に接している方ですらやっぱり北区観光協会と言われるものあるのかとそういう話になるんですけど、だから観光協会という名前やめたほうがいいんじゃないのかとそういう提案も含めて意見書を提出申し上げて、この意見書がおおむねまあいいんじゃないかと、こういうご結論が区のほうから出るようであれば、その設立準備委員が発起人となって区と連携を確保した民間主体のいわゆる、仮称北区観光協会が設立に向けて動き出すと、こういう状況であるということをお話申し上げたいと思います。

ですからそのDMOは東京都の場合には墨田区が単独でDMOをつくって今おやりになっていますけれども、その今、意見書の中のイメージは委員がおっしゃったような広範囲のところの連携のDMOというよりは、これは基本的には北区の中のDMOなんですけれども、その意味合いは観光で誘致をすとか何とかということにとどまらず、シティプロモーションも含めた全体像をやっていくためのDMOだと、こういうような考え方というふうに、またぜひ意見書なんか、意見書は公開されていますよね。まだされていないのかな。

## ○区

多分、公開されています。

## ○委員

ぜひホームページのほうに出ておりますので、お願いいたします。これは、私の意見じゃないんで時間から除外していただきたいんですけど。

それとですね、私のほうの話ですけれども、まずちょっと人口の話のところをさせていただきたいんですが、この2ページと3ページのところですね。図表の5の自然増減のところとそれから外国人人口のこのかかわりなんですけど、この左のページのほうを見て社会増減を見ていくと、例えば2013年、1,814人プラス。2014年、2,584人プラス。2015年、1,791人プラスと、こういうふうになっているわけですが、それでさっきのお話で、おおむねこれ2014年から15年にかけても15年から16年にかけても大体1,600人とか、1,700人ぐらいふえていますよと。外国人の数ですね、という感じが読めるんですけど、ということは結局社会増減は隔年ではありますけれども、外国人の増加にほとんど依拠していて、年によっては800人ぐらい日本人がふえています。こういう見方ですよというふうに理解をしていいのかということと、もしそれが正しいんだとすれば、このことはそのまま、なかなか居住の自由というのはあるわけですからあれなんですけれども、そのまま人口増として受け入れていい話なのかどうなのかという、ビジョンという以上、どういう人口構成になっていくのかというようなことも、頭には置いておく必要があるんじゃないかなと、こういう感想を持ちました。

それから、皆さんからずっとお話がありましたこのKPIのお話ですけれども、個々のことというよりも、まず全体の話としてKPIをやるのに非常に苦勞されて無理があ

ったなということはわかりましたという感じもするんですよね。それと同時にそれから目標値の取り方が間違っていたんじゃないかなということとか、目安が違ったとか悪いんじゃないかとちょっと控え目過ぎたかなと、住みたい町ランキングは10位以内でもよかったのかなとか、いろんなそういうあれがあるんじゃないかと思うんですけども、いずれにしてもその辺のところはどんどん中間で修正をしていくことが大事なんじゃないかなと、どちらにしてもですね、そういう感じがします。

それとあと、これ具体的にどうということのところまでが、この総合戦略で議論されるべき話なのかどうかということもあるんですけど、例えばこの1ページ目の三世代住宅建設助成件数というのが目標が293件、実績が10件でしたというふうになっていて、これで考えると平成31年に293件の目標を達成するためには年間35件ずつやっていかなきゃダメですねと。そうすると、10件しか実績がなかったということは35件にするための手を打たなきゃダメですねということが、どこで誰がやるんですかということですね。これ31年までは目標を変えなくていいんだというふうに思っていると、前段の話とつながりますけれども、できないまま終わりましたねという話になったり、数字合わせみたいになってしまうので、そういう意味でもこのKPIのさっきちょっと課長からご議論いただいてというお話もありましたけど、これ全部一つ一つご議論いただいていたらもうあれなんで、ぜひその辺を事務局なりにもう一度こういうので修正したほうがいいと思うみたいな意見を出してきていただいて、主なものをピックアップして議論するというような形でやっていただいたらいいんじゃないかなと思います。

それと最後に、冒頭申し上げた観光のところにも関連をいたしますけれども、さっき再三出ております田端文士村の人数を例にとれば、じゃあ、例えばこれ台東区の樋口一葉記念館は何人入館しているんですかとか、文京区の森鷗外記念館は何人入所しているんですかとかというようなのは、捕まえているようなものなのか。そことの比較だと思うんですよ。今まで1万1,000人だからそれを1万3,000人にしましょうとかいう話ではなくて、シティプロモーションをし、ある種の達成化をしていくということが目標にあるんだとしたら、活性化しているところの同じような施設、コンテンツとして芥川龍之介が森鷗外に劣るとは思えませんから、やっぱりそのために、よくわかりませんが2万人が向こうに来ているんだとしたら、2万人にするためにどういうプロモーションをしていかなきゃいけないのかという話じゃないといけないんだろうなと。その必要があるかないかは別の問題ですけども、目標値ってそういうものじゃないかなという気がしております。

以上です。

#### ○会長

ありがとうございました。

それでは、次の委員、お願いいたします。

#### ○委員

はい。私は一つだけで限らせていただきますけれども、資料のこれは6です。6の4番目、(4)番目、産前産後のケア事業、この辺、先ほどPR云々という話が出ました

けれども、民生委員としては我々PRしなきゃいけない立場で、なるべく学校とか行ったときにはしております。

ただ、学校に行っても産前産後の話は、ちょっと関係なくなっちゃう場合も多いんですけれども、機会があるごとにするようにはしております。それで、これを取り上げた理由は、産前の問題って非常に大きくて虐待につながっちゃう可能性が多いんですよ。産前のときにその子育てってどんなに大変なのか、あるいは、そんなことは問題にしないでいいのかということを知っておくか知っておかないかで、全然変わってきちゃいますので、産前産後のセルフケア講座というのは、どの程度深いところまでやっているのかがちょっと気になっていまして、0歳になる前、0歳で虐待が一番多いんです。だから産前にしておかなきゃいけない。

もうおなかの中にいるときから出産してすぐに泣くという夜泣きが多い、昼間はよくても夜泣きが多いというのは本来知っていてほしいんですよ、お母さん方に。それでもうしょうがないんだ、あるいは、4歳ぐらいから小学校4年生ぐらいまでは親に逆らうちょうど逆らう時期なんだよ、そういうようなことを知っておいてもらいたいので、この辺のケア講座も深く、深くというか回数的にやってもらおうとか、あと、ペアレントトレーニングなんかも発達障害の子どもにとって大事なものは、子どもにとってというか親にとって大事なことになりますので、その辺も含めてどの程度やっているのかなということだけ、ちょっとこれは難しい、答えにくい問題だとは思いますがけれど、深くやっているんですかね、どうなんですかね。

## ○区

まず、産前産後セルフケア講座の件ですけども、産前の方ですと妊娠16週以降の安定期に入った方という方を対象にしていまして、バランスボールを使ったエクササイズをやったり、後は公共的なサービスとしてある情報をいろいろ提供したり、参加されている方同士でいろいろお話をさせていただいてネットワークをつくっていただいたとか、そういった中身になっています。

あと、そうですね、あと、このほかに従前からやっているママパパ学級とかというものも保健センターで展開していたりすると思うので、その中でお子さんの夜泣きのことであるとか、そういった情報は提供されているのではないかなというように思っております。

ペアレントトレーニングなんですけども、すみません、どこかでやっているはずなんですけども、今ちょっと詳しくご提供できるだけの資料がございませんで、申しわけございません。

## ○委員

育ち愛ほっと館ではやっていることは事実なんですけど、それがどういう感じになっているかなというのが一番知りたかったんです。

## ○委員

私の知っている範囲で言いますと、その児童館とか育ち愛ほっと館でノーバディズ・

パーフェクト・プログラム（NPプログラム）をやっている。完璧な親なんていないという、そういう講座をやっているはずです。結構受講者が多いと聞いています。

○区

すみません、ありがとうございます。

○委員

ちょっと振っちゃったんで、人口の話だけちょっと。

○区

社会増減の主な要因が外国人ということでもいいかということなんですけども、やはりこの数字見ますと、かなり大きなところを占めているかなというように受けとめております。

○委員

そういう見方をしているということですね、これ。

○区

これで、はい、そのように思っております。

○会長

多分それでよろしいと思いますが、またちょっと国勢調査、9月のうちに出るのでちよっともう一回ご確認いただければと思います。

○区

そうですね。はい。

○会長

じゃあ、すみません、続きまして、お願いします。

○委員

あの委員のそのご指摘が、私も本当にそこが一番大事な、きょう私、聞いていてですけど、戦略という部分ですね。人口増の社会増の大きな部分が外国人であること、そのものが問題かとそうは思わないですね。外国、それもいいんじゃないかと。ある部分問題があるかもしれないけどという受けとめ方でいいんだと思うんですが、先に言われちゃったんだけど、もうちょっとその話を続けると、何だか知らないけど今回の選挙は消滅可能都市とかですよ、ブラックホールとか言った人が立候補しているわけですよ。もし当選しちゃったらどういう都政になるんだと、非常に興味津々なんですけど、それは冗談としまして、本当に北区はブラックホールだということがあったと思うんですが、これ非常に最初のこの人口の動き見ておもしろいですよ。違うだろうというふうに言え

るんじゃないかなと。ここはしたたかに、まあ何だかんだ言いながら世間さんはそう言っているんだけど北区はしたたかに、むしろ子どもは本当にふえている、人口がふえる町なんだと、これでブランドを挙げてどうなんだ、そういう戦略をしたたかにとっていく数字がここにあらわれているように見えたんです。

ただ、残念ながらちょっと外国人その増加の部分をかかなり支えているとすると、もうちょっと違う戦略になるかもしれないなと思うんですが、それにしても出生数がこれだけ多いと。本当にトレンドだけで人口増減を追っていたって、だめだなということなんだろうと思いますね。

それから転入、転出。転入はこれだけふえている、それはいいんですけど、転出が多いということが同じく伸びていますよね。相当入れかわっているのではないか。出ていく人もこれだけいる。もうちょっと若い世帯が子どもを育てるために入ってきている。結果的に、その待機児童がふえていると。待機児童を減らすためにいっぱい定員をふやしていつているけど、待機児童の部分だけはふえている。これはむしろ問題ではなくて、問題なんですけどうれしい悲鳴というか、それだけ北区が人気が出てきているということですよ。この辺はどう読むのかで戦略が全然違ってくるだろうなというふうに見ておりました。この辺もっと掘り下げたいなと思うんですけど、それでこの辺多分、委員から掘り下げてくれと言うんですけど、やっぱり赤羽の次になるんなら、王子だろうと思うんですが、次の駅というのは。

いずれにしろ、ランキングはどうなんだって言うと北千住なんですよ。信じられないですけど、一応、ランキングは上がる過程で何が起こったかというところと大学が来た。電機大学を初め、それから区役所は出ていったんですけど、その後に芸術大学が来ていたりとか、駅前再開発が進んだとか、そのほかありましたのでああいうことになっている。つくばエクスプレスが来て交通状況もどんどんよくなっているんですけど、そういうこともあって赤羽が次に目立ちますよね。それを追いかけるとすると、王子かなとは思いますが、ちょっと交通が弱いかもしれませんが、いろんなものが集積しているあるいはこれからする可能性があるのは王子ですから、ここを何としてもおくれた分つけていきたいですよ。

そのこともあって、これ非常に前向きの数字がちょっとそれ読み過ぎかもしれませんが、おもしろいなと思って見ていました。

## ○会長

ありがとうございました。

最後に副会長、お願いいたします。

## ○副会長

私は人あるいは子どものところを中心に行きたいと思うんですが、資料4で言いますと3ページ目で、先ほどからいろいろ意見が出ていますけど、外国人人口の増加というのがこういうふうにごデータで示していただくと、こんなに急増しているのかということを知りまして、当然その子どももふえていると思いますので、その外国につながる子どもに対する支援が、いろんなメニューを見てみますとちょっと足りないかなという気が

しましたので、この辺はやっぱり必要かなと思いました。

それから資料5で行きますと1ページ目ですね、施策の方向の(1)ですか。ティーンズセンターの設置というのがありました。これは新たに27年度から始めたということですね。やはり子どもの問題を議論するとき、前から申し上げていますが、どうしても、この就学前とかあるいは、小学校低学年の子どもに対する施策というのが中心になりまして、中高校生ぐらいから非常に手薄なんですよね。行政が中高校生とか、思春期の若い人たちに何かする必要があるかという議論は、一方ではあるかと思うんですが、私はやっぱりそういうものを用意する必要があると思いますので、ぜひともこのティーンズセンターについては、検証と言いますか利用者の声を聞いてもらって、何がいいのか何が悪いのかというところを、あるいはもっとこうしてほしいという声を聞いていただきたいと思いました。

それから資料5の2ページ目なんですけど、その施策の方向の(2)なんですけど、若者の就労支援・定着化の三つ目ですね。大学生を持つ保護者のためのセミナー参加者ですね、これは例えば、なかなか外に出にくい人がいるので、そのための保護者というよりは、一般的な大学生の保護者ということで理解していいのでしょうか。ここまでやる必要があるのかというのが、ちょっと率直なところで、オープンキャンパスとかああいうときには、保護者がついてきて実は困っているんですよね。保護者が一方的にしゃべって若い人が何もしゃべらないので、私は特にお嬢さんはいかがですかと必ずしも聞くようにしているんですが、こういうのは必要なのか、必要があるのかもしれませんが目標値が高いので、これはちょっと気になるところです。半分感想ですけど。

それから資料6に行きまして、まず一つ目、先ほどから出ているんですが、(2)の文士村のことなんですけど、ジオラマの制作とか、こういうのすごくいいなと思ったんですが、個人的な趣味から言うと、ミュージアムショップとかいうのがすごい好きなんです。実は仕事でちょっと7月上旬にソウルに行ってきたんですけど、ソウルの梨花女子大のギフトショップがものすごく充実していて、何か幾つか買おうかと思ったんですが、母校でもないし、それから近所でもない大学のグッズを持っていてもしょうがないと思って買わなかったんですが、ああいうもので北区が行政としてできるかわからないんですが、文士村でミュージアムショップみたいなものって、ちょっとすてきなグッズを買ってもらおうというのもいいかなと思ったのと、それから田端文士村とそれからよくテレビのニュースに出てくるナショナルトレーニングセンター、あそこ必ず北区とか出てきますよね。ああいうものを幾つか取り入れて小さな旅とか日帰りの旅のモデルプランみたいなものをつくってそれをホームページに載せたら何か広報に載せて、なおかつ若い人にやってもらってすごくよかったよというのをSNSで拡散してもらって、魅力発信というのはどうかなと、これはちょっと個人的な好みも含めて思いました。

それからこの資料6の3ページの先ほどから委員からも出ていたんですが、産後ケア事業というのが絶対ニーズが高いと思います。認知度が上がればこれは相当利用者がふえるわけで、これは私いつも会議で申し上げているんですが、物をもらうより人手が一番欲しいんですよね。特に産後の人出がすごく欲しいので、これはもう絶対必要としている人がいますし、これを利用することによって夫への恨みとかそういうものが減っていくと思いますので、ぜひともこれは広めていただきたいし充実をさせ

ていただきたいと思いました。  
以上です。

#### ○会長

ありがとうございます。すみません、私のタイムスケジュールの不手際で予定時間20分ぐらい時間を過ぎてしまいまして、やっぱり最初からちょっと時間の制約をさせていただければよかったかな。

私、自分で言うのも言いたいこと幾つかあるんですが、一つだけ、委員や副会長がおっしゃっているように、KPIの目標をどういうふうにして考えているのか。それからこれ達成するだけじゃなくてPDCAを回していくかということ、やっぱりしていただきたいかなというふうに思っています。

委員の皆様、どうもありがとうございました。

次の議題にまだ実は議題が二つほどございます。本来であれば別々にご説明いただきたいというところではあるんですが、ちょっと時間の関係もございますので、平成28年度北区版総合戦略の改定とそれからもう一つ地方創生加速化交付金に係る実施計画の提出について、これを続けてご説明いただいて、その後でまた皆様からのご意見のある方から伺いたいと思えますけど、それでは事務局のほう、お願いいたします。

#### ○区

はい。では、資料8をごらんいただきたいと思えます。今年度これから取り組んでいきたいと思っている北区版総合戦略の改定についてでございます。本年度は、北区の基本計画2015に基づいて、3年間の実施計画として位置づけている北区の中期計画というものがございます。その改定の後というようになってございます。それにあわせて北区版総合戦略につきましても、改定をしていきたいというものでございます。

資料8見ていただきますと、総合戦略と中期計画ということで記載をしておりますけれども、まず本日の会議の中でいろいろご意見いただきました。新しいアイデアなどもいただきました。そういったものも踏まえまして、北区の中で中期計画の案というものを策定していく作業に入りたいと思っております。11月の下旬ぐらいまでに中期計画の案を策定する予定でございまして、こちらは北区議会にも報告をしていくというように考えてございます。それにあわせた形で総合戦略の改定の案についても取りまとめをさせていただき、12月のこの会議の中でその案を示させていただきまして、またご意見をいただきたいというように思っております。そのとき同時に中期計画の案につきましても、パブリックコメントも実施をいたします。そういったものも経ながらそれぞれ中期計画、総合戦略の改定をしていきたいという流れでございまして。また、委員、会長からもご意見いただいていたけれども、そのKPIであるとか目標値の見直しにつきましては、この中期計画の改定の中でも行っていきたいと思っておりますので、総合戦略の改定（案）の中ではこういった点をご意見などを踏まえて変えておりましたということで修正点などを示させていただけるかと思っております。それをもとに、ご意見いただければというように思っております。それが北区版総合戦略の改定のスケジュールということでございます。

続きまして、資料9番をごらんいただきたいと思います。こちらは、地方創生加速化交付金（2次募集）についての中身ということになります。これは、平成27年度に国が加速化交付金というものを地方創生の関係でつくりました。この2次募集というところに北区といたしまして28年度も引き続き行われるということなので再度申し込んでいきたいというように考えている中身でございます。

1番の要旨のところに書いてございますけれども、昨年度、27年度の終わりに、この加速化交付金を財源に見込みまして、区議会の第2回定例会におきまして補正予算を計上をさせていただきました。ただ、そこで出した事業は2番にありますような提出事業というふうにありますけれども、「住めば、北区東京。」プロモーション事業、生活サービス産業活性化事業とこの二つについて昨年度1次募集で出していたわけですが、それにつきましては残念ながら不採択というような結果になりました。そこで、今年度また継続して2次募集があるということになりましたので、再度1次募集の不採択の反省を踏まえまして、2次募集に応募をしていきたいということでございます。

3番のところを見ていただきますと、提出事業ということで二つの事業を提出しましたということになっておりますが、一つ目のところでは、互いの魅力を生かしたWIN-WINの自治体間連携・交流推進事業。二つ目のところで、子育てしながら働く女性・世帯の輝き応援事業という、この二つの事業について現在申請をしているような状況でございます。7月下旬もしくは8月にこの結果が来るかと思うんですけれども、採択というふうになれば、この事業を展開していきたいというように考えている中身でございます。

以上でございます。

#### ○会長

ありがとうございました。

それでは、今の議題二つにつきまして、ご意見等はある委員の方はご発言をいただければと思います。どなたからでもいかがでしょうか。

じゃあ、委員お願いします。

#### ○委員

12月の推進会議の改訂版に向けて、一つこれができたらいいなということを申し上げさせていただきたいと。

KPIの話なんですけれども、先ほど来ずっと委員、副会長から出ているお話とともに、KPIというのが結果指標なのか、その結果をもたらすための先行指標なのかという関係性が、まだちょっと整理が弱いかなというふうに思いました。例えば、だから体系動数というのは結果指標ですね。でもそれを解消するための先行指標として、じゃあどれぐらいの保育所数を開設したのかとか、去年の実績として希望する人員がどれぐらいいて、それに対して結果としてどれぐらい入れたのかというような数字があって、そういうふうな結果指標と先行指標というので、先行指標しか多分手が打てないと思うので、それをまず分けたほうがいいかな。

何か逆に女性の働く場所の話のキャリアアップ参加者数、セミナーの参加者数なんか

は、先行指標のはずなんですよね。先行指標で結果として、そこでキャリアにつけた人たちが、何人いるかというのが結果指標という形なので、それがその指標の中にまざっている状態だと思うんです。だから、結果指標集とその結果に基づく、紐づくための先行指標という形にうまく整理整頓しておいていただくと先行指標がうまくいっているので、きっとこれは、結果につながってくると思うみたいなことが見えるので、それがキーパフォーマンスインディケータの役割だと思いますので、そのあたりを少し整理をつけておいていただけるといいかなと。

以上です。

○会長

ありがとうございます。非常に大事なご意見を伺ったと思います。どなたでもほかにご意見等ございましたら、いかがでしょうか。

○委員

ないならもう一個言っていいですか。

○会長

じゃあ、どうぞ。

○委員

先行指標の話とともに、私、北区さんのが一番よくできているなと思うのは、基本目標1が多分一番重要で、次に2が来て3が来てと優先順位づけが、極めて区の戦略としてシャープに描かれているなというふうに思っているんですけども、じゃあ、同じように、もっとシャープさを増すのであれば、基本目標1の子育てするなら北区が一番をより実感できるようにするというものに対して、これが最終目標だから、最終であり最大目標なので、それに向けて一番重要なKPIとして何を置いているのかという、そのKPIの中での優先順位というのも、何なのかということも、もう一段つけていただけるともっとシャープになるかなと思いますね。それがちゃんとメディアにPRができて北区として本当に生んでよしの暮らし、働きながら育ててよしの暮らしというのを実感していただくというようなことが、じわじわと多分住んでいる方が実感すれば、いつかメディアはちゃんとそこに触れてくれるんだというふうに思いますので、そのあたりの優先づけをしっかりといただけたらなというふうに思う。

これも最後できたら最高というレベルですけど、ある一人の女性の方が北区に引っ越してきましたということから、その方は一体最初に子どもをつくるのかつからないとか、じゃあ、何人つくろうとか、生んで育てるのに何に不安に思っているんだろうとかということから、じゃあ、実際生んでみましょう、生んでみたときに何を感じるんだろうとかという形があって、それに対して北区というのが、どういうふうに政策的に寄り添っているのかということも、ざっと子どもを産む前に引っ越してきてから、それが先ほどの委員の話で言えば、中高生、高校生、中学生、高校生になるところまで育てていくのに至るところまでどういうサポートがあるのかということの一つの何ていうかな、

ストーリーとしてちゃんと描いていただいて、それがこういうふうに我々のサポート事業でしたらあるんですよというのが可視化したものが何かわかりやすいものがぱっとあると、先ほど委員が気づかなかったみたいな話もあるかと思うんですけど、そうか、だからこういうサポートがあるんだみたいな、何かそれが市民の方にぱっと見てすぐわかって、でもピンポイントではなくて、ちゃんとストーリーとしてつながっているみたいなものができてきたりすると、わかりやすく伝わるのかなというふうに思いました。

○会長

はい。じゃあ、委員、お願いします。

○委員

その基本目標がこういうふうに分かれていて、今委員もおっしゃって大変わかりやすいんですけども、その上位というかやっぱりこの北区が元気になるために、その定住化してそこに住まって、もしくは働いてという人がふえていく、昼間人口、夜間人口を含めた元気のいい人がたくさん住んでいるということなんだろうと思うんですね。

そうすると、その「子育てするなら北区が一番」も、子育てするなら北区が一番ですから住みやすいですよ、住んでくださいねという話だし、それから女性・若者・高齢者の活躍を応援するのも、今住んでいる人ももちろん頑張ってもらいたいんだけど、外から来る人もそういうところですから来てくださいねと、こういう話だしということだから、やっぱり知らせないと意味がないですね、要するに、世の中に。いいことだから誰か気がついてくれるだろうとかというんじゃないで、やっぱり知らせないと意味がない。

そうすると、結局何だという話になると、やっぱりシティプロモーションの話に戻ってくるんだと思うんですよ。それがシティプロモーションがこのぐらいの位置のところにあるというのはちょっと違うんじゃないかな。その総合戦略を立てていくに当たって、やっぱりシティプロモーション、僕ら企業で言えばマーケティングが会社全体を包み込むように、シティプロモーションが全体を包み込むような形での個々の戦略、戦術ということになっていかないと、前へ進んでいかないんじゃないかなという気がするんですよ。

その辺ちょっとぜひ、シティプロモーションがどうなのかは、議論があるところだと思います。そういうその全体を包み込むものというのを、もう一度よく考えて進んでいただきたいなというふうに思っています。

○会長

ありがとうございました。

時間もちょっと迫っています。これだけは言っておきたいということがありましたら。

はい。それじゃあ、委員、お願いします。

○委員

すみません。最初のほうで委員が子ども食堂の話がされたので、ちょっとその関係で

一つあれなんですけれども、以前、練馬がすごく子ども食堂が盛んでそこで一番最初に始めた子ども食堂の方がおっしゃっていたんですけど、始めるのは簡単なんですけれども、子どもの安心とか信頼のためには適当にやめるわけにはいかないんですね。せっかく来られるようになったのになくなっていったと、大人の自己満足で終わるわけにはいかないもので、やっぱりそういう長く続けられるシステムって、とっても必要だと思うんですね。

今のコミュニティソーシャルワーカーが東十条に1ヶ所あるだけで、この計画の中にも2ページのところでモデル配置検証というのが、31年度末にも1ヶ所のみで、やっぱり今、社会福祉協議会の方が各地域を担当されてはいるんですけども、その地域にあって今王子と赤羽で私が知っている限りでは3軒子ども食堂が立ち上がっているんですが、やりたいという声はとても多いので、ぜひ区のほうで手助けをしてほしいということと、あとシニアとか大学生から高齢の方までの就職の場として、子どもセンターとかティーンズセンターのスタッフでバイト的なスタッフであるとか、放課後総合プランのスタッフであるとか、地域で働く場所としてぜひ活用してほしいと思います。保育園がやっぱり幾らふえても働くのはとても厳しくて、子どもが熱を出すから小さい子がいるとだめと言われるのも相変わらず多いので、やっぱり身近に働ける場所をどんどん積極的に開示して行ってほしいなと思います。

以上です。

#### ○会長

はい。ありがとうございました。

司会が余りうまくなくて、また、こんなに皆さんしゃべられる会議って普通はなかなかないですね。それで申しわけございませんでした。ちょうどこれで予定の9時ということになりましたので、本日はここまでにさせていただきたいと思います。

本日はどうもありがとうございました。

すみません。事務局のほうから何かお知らせございますか。

#### ○区

はい、ありがとうございました。

本日いただいたご質問等で確認をして、後日お知らせできることにつきましては、ご連絡をさせていただきたいと思っております。第2回につきましては12月に開催を予定しておりますが、また、日程を早目にお知らせできるようにさせていただきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

#### ○会長

それでは、本日の推進会議はこれで閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。